

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.6.15 No.108 連絡先 FAX 042-555-1911



航空自衛隊航空総隊、航空総隊司令部はどんな任務を持っているの？



来年3月までに横田基地に800人の航空総隊司令部等の自衛隊員がやってきます。航空総隊とは？まずは自衛隊のホームページで検索してみました。

航空総隊の任務

航空総隊は、警戒管制レーダーや空中警戒管制機（AWACS）などによりわが国周辺を常時警戒監視し、領空侵犯のおそれのある航空機を発見した場合、スクランブル機を発進させ、状況を確認し領空を侵犯させないための行動を行っているほか、有事においては航空自衛隊が行う航空作戦（1. 侵攻する敵航空戦力を撃破して防護対象を防衛する防空、2. 敵陸海戦力を弱体化させる航空阻止、3. 陸上部隊を支援する近接航空支援、4. 海上部隊を支援する海上航空支援、5. 陸海空の各種作戦に必要な情報を空から収集する航空偵察、6. 敵の攻撃から航空基地を守る基地防衛）を実施します。

また、最近は弾道ミサイルに対する防衛（BMD）の任務も付与されております。さらに、大規模災害発生時には被災地への災害派遣等も実施しております。

航空総隊司令部

航空自衛隊の戦闘機部隊、高射部隊及び警戒管制部隊などを統括する組織です。近年におきましてはミサイル防衛として海上自衛隊のイージス艦をも含めた統合任務部隊の指揮官を兼務しました。これに関連して、アメリカ軍との防空・ミサイル防衛の情報共有・連携強化を目的として、在日米軍横田基地内に移設されます。

北部航空方面隊は三沢基地に司令部を置き、主として北海道及び東北エリアの防空を任務としています。

中部航空方面隊は入間基地に司令部を置き、関東、中部及び近畿エリアの防空を主任務としています。

西部航空方面隊は春日基地に司令部を置き、主として中国、四国及び九州エリアの防空を主任務としています。

南西航空混成団は那覇基地に司令部を置き、沖縄エリア及び奄美群島の防空を主任務としています。

航空総隊

航空総隊司令部 - (府中基地)

(航空方面隊の配置)

北部航空方面隊 - (司令部：三沢基地)

中部航空方面隊 - (司令部：入間基地)

西部航空方面隊 - (司令部：春日基地)

南西航空混成団 - (司令部：那覇基地)

(航空総隊直轄部隊)

偵察航空隊 - (百里基地)

警戒航空隊 - (浜松基地)

作戦情報隊 - (府中基地)

防空指揮群 - (府中基地)

プログラム管理隊 - (入間基地)

航空総隊司令部飛行隊 - (入間基地)

飛行教導隊 - (新田原基地)

高射教導隊 - (浜松基地)

基地警備教導隊 - (百里基地)



武蔵村山市に自衛隊宿舎

武蔵村山市に255戸の自衛隊宿舎が建設され、一部入居しています。横田基地問題を考える会の方の話では、大分、福岡、尾張小牧、岐阜、浜松、北見、札幌などの車が駐車していたそうです。

▼だれが助けるのか…福島原発で現場作業員がグラインダーで額（ひたい）を切って、大怪我をしたことがあった。一刻を争う大怪我で直ぐに救急車を呼んで運び出した。怪我人は放射能まみれだった。救急隊員にも放射能汚染の知識がなく、怪我人は放射能の除洗をしないまま病院に運ばれた。だから救急隊員も救急車も汚染される、医者も看護婦さんも、他の患者さんも汚染される、患者さんが外へ出て、汚染が広がる、町中がパニックになる大変な事態になった。

一人でもこんなに大変。それが仮に大事故が起きて大勢の住民が放射能で汚染された時、一体どうなるのか。人ごとではない。この国の人、みんなの問題だ。

▼びっくりした美浜原発細管破断事故！…日本の原発はびっくりするような大事故を度々起こしている。スリーマイル島とかチェルノブイリに匹敵する大事故だ。1989年に、東京電力の福島第2原発で再循環ポンプがバラバラになった大事故も、世界で初めての事故だった。

そして、1991年2月に、関西電力の美浜原発で細管が破断した事故は大事故だった。

この事故の時はもうびっくりして、足がガクガクふるえて椅子から立ち上がれない程だった。この事故は ECCS（緊急炉心冷却装置）を手動で動かして原発を止めたという意味で、重大な事故だった。ECCS は、原発の安全を守るための最後の砦に当たる。これが効かなかつたら終りだった。原子炉の中の放射能を含んだ水が海へ流れ出て、炉が空焚きになる寸前だった。

日本が誇る多重防護の安全弁が次々と効かず、あと 0.7 秒でチェルノブイリになるところだった。たまたまベテランの職員が来ていて、その人がとっさの判断で手動で止めて、世界を巻き込むような大事故に至らなかった。本当に運がよかった。

▼もんじゅの大事故…去年（1995年）の12月8日に、福井県の敦賀にある動燃（動力炉・核燃料開発事業団）のもんじゅでナトリウム漏れの大事故を起こした。もんじゅの事故はこれが初めてではなく、私は建設中に6回も呼ばれて行った。元の部下だった人たちがもんじゅの担当もしているの、困ったことがあると私を呼ぶ。ある時、「配管がどうしても合わない」という。行って見ると、すべて図面どおり、寸法通りになっている。でも、合わない。一晩考えてようやく分かった。もんじゅは、日立、東芝、三菱、富士電機などの寄せ集めのメーカーで造ったもので、それぞれの会社の設計基準が違っていたのだ。図面を引くとき、会社によって 0.5mm を切り捨てたり、切上げたりする。それが 100 ヶ所も集まると大変な違いになる。

重大事故でも、国は「事故」と言わない。美浜原発の大事故の時と同じように「事象があった」と言っていた。私は事故の後、直ぐに福井県の議会から呼ばれた。福井には 15 基も原発があるが、誘致したのは自民党の議員さん。だから、私はそういう人に「事故が起きたらあなた方のせいだよ、反対していた人には責任はないよ」と言ってきた。その議員さんたちに呼ばれた。「今回は腹を据えて動燃とケンカする、どうしたらよいか教えてほしい」と相談を受けた。私は「これは事故なんです、事故。事象というような言葉に誤魔化されちゃあだめだよ」と言った。県議会で動燃が「今回の事象は……」と説明を始めたら、「事故だろ！事故！」と議員が叫んでいたのが、テレビで写っていたが、あれも、黙っていたら、軽い「事象」ということにされていた。地元の人たちだけではなく、私たちも誤魔化されてはいけない。

垂直離着陸輸送機M V22オスプレイ 普天間 来秋から順次24機配備 米当局方針

米国防総省はオスプレイ 2 個中隊計 24 機を普天間基地に順次配備する方針を明らかにしました。オスプレイは墜落死亡事故が頻発。宜野湾市長も沖縄県知事も県民も、配備に反対です。

沖縄県選出・出身の衆参国會議員 7 人が「オスプレイ配備反対」で共同声明を発表しました。